

経済 TOPICS

No. 242

(2025 年 4 月 18 日)

景気ウォッチング（要旨）

- 日本 … 生産や個人消費が横這い圏内の動きとなっているなか、輸出がトランプ関税前の駆け込み需要から増加しているほか、設備投資が緩やかな増加傾向にあることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、食料価格の上昇が続くなか、エネルギー価格の上昇も続いていることから、前年比プラス幅がやや拡大した。この間、予想以上に広範で厳しい米国の関税政策の影響により、世界経済の先行き不透明感が非常に強くなっている。
- 米国 … 住宅販売は弱い状態が続いているものの、生産が横這い圏内で推移し、設備投資と個人消費が堅調に推移していることから、全体としては堅調な成長を維持している。この間、雇用はタイトな状態が続いている。消費者物価は、サービス価格の上昇圧力が徐々に弱まっているため、前年比プラス幅が縮小している。

(参考1) 米国の関税政策の影響

米国の新たな政策は、世界経済への影響が大きく、先行き不透明感を非常に強くしている。一律10%の追加関税だけでも、米国および世界の経済成長を大きく下押しする見通し。日本についても、北米・中国向けの輸出企業(一般機械器具製造業や機械器具卸売業が中心)から影響が波及し、内外需が縮小していく可能性がある。

(参考2) 物価動向

〈日本〉 食料価格の上昇が続くなか、エネルギー価格の上昇も続いていることから、前年比プラス幅がやや拡大した。この間、食料価格の上昇により、エンゲル係数(家計の消費支出に占める食費の割合)が上昇し、家計を圧迫している。

〈米国〉 エネルギー、食料、商品価格が鎮静化しているほか、サービス価格の上昇圧力が徐々に弱まっているため、前年比プラス幅が縮小している。この間、エンゲル係数は、食料価格の鎮静化から、低下傾向となっている。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング